

2022 年度学位記授与式 式辞

神戸松蔭女子学院大学
学長 待田昌二

皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。本日もご列席いただきましてご家族の皆様に対しましても祝意をお伝えいたします。

神戸松蔭女子学院大学の大学モットーは **Open Yourself, Open Your Future** です。卒業されるにあたって、この大学モットーについてもう一度お伝えしようと思います。

まずは、4年前を思い起こすことから始めたいと思います。4年前の4月1日に新しい元号が令和になることが発表されました。実際に令和が始まったのは5月1日からですが、令和とともに新学期が始まったように感じました。令和という元号の発表とともに始まったこの4年間は、令和という言葉の落ち着いた印象とは裏腹に、波乱の4年間でした。

2019年の4月にはフランスパリのノートルダム大聖堂が火災で大きく損壊しました。さらに10月には、沖縄の首里城が火災で全焼するという衝撃的な映像を目にすることになってしまいました。同じ年の7月には京都アニメーションのスタジオに対する放火で多くの方が犠牲になるという痛ましい事件もありました。一方、ラグビーワールドカップにおいて日本チームが強豪国を相次いで破り、初めて決勝トーナメントに進出するという嬉しい出来事もありました。日本で開催されたワールドカップだっただけに、たいへんな盛り上がりになったことが思い出されます。

そして、12月には新型コロナウイルス感染症が海外ニュースに取り上げられるようになります。この時にはまだ海を隔てた出来事であり、関心を持ちつつも切迫感はありませんでした。しかし、2020年の1月に日本で最初の感染者が確認され、急速に私たちの身近な問題となっていきます。2月27日に当時の安倍首相が小学校から高校までの臨時休校を要請し、3月2日から実際にほとんどの学校が休校する事態となり、全く予想もしていなかった変化に直面していくこととなります。

キャンパスにおいて、学生・教職員が親しく声を掛け合いながら学ぶのが本学の特徴ですので、4月からの授業をすべて遠隔で行うなどあり得ないことと私は考えていました。しかしながら、外出の制限が要請される中、新年度の授業開始を延期し、遠隔授業として実施することを決定せざるを得ませんでした。本当に愕然としたことを憶えています。

皆さんは、キャンパスでの学びだけでなく、留学やクラブ・サークル活動、アルバイトなど様々な経験をする機会を奪われることとなってしまいました。さらには、皆さん自身があるいはご家族が感染症に罹ってしまったことで、たいへん苦しい時期を過ごされた方も多くおられることと思います。この特別な3年間を乗り越えて新しい道に進もうとされている皆さんに、心よりエールを送りたいと思います。

今は単に辛い経験であったとしか思えない方もおられるでしょうが、この3年間で身に付き、これからの人生に役立つ財産となることもあります。その一つは変化に対応する能力です。2020年の春の遠隔授業は学修支援システムの松蔭 manaba を通した課題型の授業中心ではじまり、通信環境が整備されたことと私たち教える側が技術を修得したことで、Zoom などによる映像配信中心へと移行しました。対面授業の一部再開に伴い、対面授業と遠隔授業が混在することになり、さらに対面授業を増やしていきました。しかしながら、緊急事態宣言が発令されて遠隔授業中心に戻ることも度々起きました。教える我々にとってもたいへんでしたが、皆さんの戸惑いは非常に大きかったと思います。皆さんの対応力なくしては、とても乗り切ることはできませんでした。

遠隔での課題のやり取り、映像のオンデマンド配信、Zoom 等のオンライン会議システムの利用は、コロナ禍が無くても学びや仕事で必要になっていくものだったでしょう。コロナ禍によってそのスピードが速まっただけと言えます。インターネットをはじめとした情報通信技術すなわち ICT の進化によって社会は大きく変化しました。人工知能すなわち AI によってさらに社会は変化しようとしています。この3年間の間にキャッシュレスやリモートワークが急速に広まったように、生活や仕事の在り方が変化していきます。AI の進化によって、現在は人がしている仕事が AI に取って代われつつあります。仕事の仕方の変化への対応、転職がますます増えていきます。すでに、スキルすなわち技術などの学び直しや新たな習得を意味するリスキリングという言葉が頻繁に耳にするようになりました。大学を卒業して就職した後も、たびたびリスキリングすることになるでしょう。

しかし、この3年間のような急速な変化はめったに起きるものではありません。皆さんは、遠隔授業への対応など様々なリスキリングをすでに経験しています。恐れることはありません。新たな技術や知識を学ぶことは自分自身の能力を拡張することであり、アップデートしていくことです。大学モットーである **Open Yourself, Open Your Future** が示すように、自分自身の可能性を閉じてしまわず、心を開いて新しい知識と技術を吸収し、未来を切り拓いてください。

大学モットーの **Open Yourself** にはもう一つの意味があります。他者に対して心を開いてほしいという意味です。他者を受け入れて信頼することから出発すれば、相手もそれに応じてくれ、良い相互作用が生まれます。もちろん、何でも信頼するという意味ではありません。多くの情報を簡単に手に入れることができるこの情報社会においては、信頼という言葉がますます重要になっています。

例えば、新型コロナウイルス感染症の対策について、マスク着用の効果やソーシャル・ディスタンス、ワクチン接種の効果など、様々な意見がありました。しかし、政府や地方自治体は、マスク着用、ソーシャル・ディスタンスを推奨し、またワクチン接種を強力に推し進めました。私たち大学もまた、その方針に従ってキャンパスで過ごすようお願いしましたし、皆さんにワクチン接種を呼びかけました。政府の情報だからとにかく信頼したという訳ではありません。政府の対策は首相を本部長として設置された新型コロナウイルス感染症対策本部が決定していますが、対策の決定に大きな影響を与えていたのは医師など専門家による会議です。大事なことは、こういった会議が法的な手続きの下で設置され、会議のメンバーや内容が公開されているというこ

とです。このような手続きは手間がかかりますし、会議のメンバーや内容を公開するとそれに対する批判も招いてしまいます。だからこそ、比較的信頼できるシステムと言えます。

一人の人間が決定し、批判にさらされることなく素早く実行する方がずっと早くに物事が進むでしょう。しかし、そういった独裁的で批判を受け付けられない意思決定システムは、間違いを認めることなく暴走してしまう危険性、一部の人間の利益だけを考慮するようになる危険性があります。それは時には、今現在この世界で実際に起きているように、戦争という悲惨な結果を生み出します。

医療に限らず、現代の高度に文明化した社会は、様々な専門家の知恵と技術の集積によって築き上げられました。この高度な文明によって、私たちは様々なことができる自由と便利さを手に入れ、自分が何を食べるか、何を買うか、どういった生活をするか、どんな職業に就くかを日々決定していかなければなりません。自分自身が完全に理解した上で正しい選択をする方がよいのは明らかですが、多くの場合困難であり、他者の意見を参考にせざるを得ません。その意見は、誰があるいはどの企業や団体が発信したか明らかでしょうか。何に基づいてその意見を出しているのでしょうか。根拠が示されているのでしょうか。

他者の意見を参考にするだけでなく、私たちはすでに様々な判断を人工知能 AI に任せています。目的地までどのように行けばよいか調べる場合などです。さらに進んで、文章でかなり複雑な質問をしても回答してくれる AI が話題になっています。今後、ますます AI に判断を任せるようになるでしょう。AI は膨大なデータをもとに質問に対して回答するので、回答の根拠を知ることが困難です。であれば少なくとも、誰がどんな目的で AI によるサービスを提供しているのかは知るようになるべきでしょう。そして、そういったサービスを提供する企業や団体をチェックするシステムがあるのかも大事になるでしょう。便利さだけでなく信頼性があるのか、ぜひ考え続けてください。

それに加えて、ある意味もっとも重要なことは、信頼できる人間関係を持つことです。難しい判断をしないとイケない時に、ネットの意見や AI に頼るだけでなく、信頼できる人と話をすることが大事です。信頼できる人間関係は、単に判断をする助けになるだけでなく、私たちの心の支えとなります。皆さんがこれから、心を開いて様々な人と交わり、信頼できる人間関係を作っていただければと思います。

最後になりましたが、皆さんにとってかけがえのない時期を過ごす場としてこのキャンパスを選んでもらったことは、私たち教職員にとって本当に嬉しいことでした。ともに過ごした日々は忘れがたい大切な記憶です。皆さんと再会し、ともに過ごした日々について再び語り合うことを、教職員一同楽しみにしています。

皆さんのこれからの健康と活躍を心より祈念しています。